

「人間とは何なのか」ということを問いかけられる気がします。

——浦井健治(俳優)

作＝イブセン 翻訳＝原千代海 演出＝鵜山仁(文学座)

小さなエイヨルフ

近代演劇の父・イブセンの傑作に、 鵜山 仁(文学座)×ピッコロ劇団が挑む—！

人間の心身には、光と闇、聖性と獣性、利己と利他、愛と憎しみ等、対立する要素が同居しています。それら二項対立の両極が激しく引き裂かれ、また混じり合い、思いもかけないものに変容する。そんな葛藤のピーク、ドラマのクライマックス。優れた劇作家はそうした移り行きを逃さず活写するわけですが、イブセンはその代表選手です。

両親の愛と欲望の功罪を背負った少年「エイヨルフ」は、愛が憎しみに、そして憎しみが再び愛に立ち戻ろうとして、まだ見ぬ「神」の領域へ踏み込む道すがらの「つまづきの石」なのかもしれません。

そのうねりを、せいぜい苛烈に、優しく描き切ることができれば…二十五周年という壮年期を迎えるピッコロ劇団の力をかりて、若々しくも爛熟した『小さなエイヨルフ』を、是非実現したいと思っています。

鵜山 仁



アルフレッド・アルメルス
岡田 力



リータ・アルメルス
森 万紀



アスタ・アルメルス
今井佐知子



ボルグ・ヘイム
吉村祐樹



鼠ばあさん
橋 義



エイヨルフ(声)
亀井妙子

※やむを得ない事情により出演者などが変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

ピッコロシアター大ホール 2018.11.2 (金)～11.7 (水) ※11/5(月)は休演日

11月	2金	3土	4日	5月	6火	7水
13:30		●	●	休演日	●	●
18:30	●			休演日	●	

※開場は開演の30分前 ※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

全席指定	一般＝3,500円 大学生・専門学校生＝2,500円 高校生以下＝2,000円
------	---

チケット9月14日(金)発売

※ピッコロサポートクラブ会員先行予約9月12日(水)
→会員種別により招待または1割引(ピッコロシアターのみで取り扱い)

《チケット取り扱い》
ピッコロシアター 06-6426-1940
(9:00～21:00 ※月曜休館、祝日の場合は翌日)
チケットぴあ 0570-02-9999[Pコード487-536]
●セブンイレブン店内端末
ローソンチケット 0570-084-005[Lコード54842]
●ローソン・ミニストップ店内Loppi
e+ (イープラス) <http://eplus.jp> (パソコン&携帯)
●ファミリーマート店内Famiポート

《お問い合わせ》
ピッコロシアター 〒661-0012兵庫県尼崎市南塚口町3-17-8
TEL 06-6426-1940 FAX 06-6426-1943
<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo>

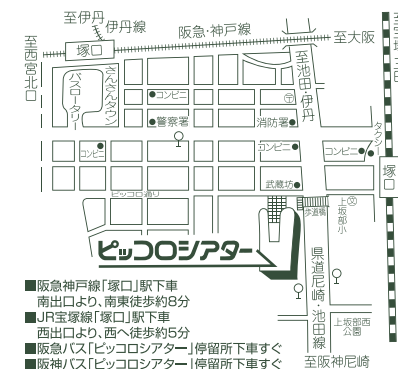


演出 鵜山 仁

慶應義塾大学文学部フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属演劇研究所に入所。1982年座員に昇格。2007年から2010年まで、新国立劇場の第四代演劇芸術監督を務める。主な演出作品に『グリークス』『シラノ・ド・ベルジュラック』(文学座)、『ニュルンベルク裁判』(ひょうご舞台芸術)、『ヘンリー六世』『リチャード三世』(新国立劇場)、『父と暮せば』『マンザナワが町』(こまつ座)等。またオペラやミュージカルなどの演出も手懸ける。受賞歴に芸術選奨新人賞、毎日芸術賞千田是也賞、紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部科学大臣賞等。ピッコロ劇団では、2003年オフシアターVol.8『審判』、2006年第25回公演 秋浜悟史追悼『喜劇 ぼらんばく』『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』に続き、3度目の演出。

兵庫県立ピッコロ劇団

1994年に全国で初めての県立劇団として創立。劇場〈ピッコロシアター〉に附属するプロ劇団〈ピッコロ劇団〉は全国的にもめずらしく、劇場と劇団が一体となって、国内外における質の高い公演活動はもちろん、学校教育や地域づくりに貢献するための演劇指導・普及活動にも積極的に取り組んでいます。
《劇団代表 岩松了(劇作家・演出家・俳優)》



■阪急神戸線「塚口」駅下車
南出口より、南東徒歩約8分
■JR宝塚線「塚口」駅下車
西出口より、西へ徒歩約5分
■阪急バス「ピッコロシアター」停留所下車すぐ
■阪神バス「ピッコロシアター」停留所下車すぐ

〈ピッコロシアター開館40周年記念〉

兵庫県立
ピッコロ劇団
第62回公演

美術＝加藤登美子 照明＝古宮俊昭((株)ステージ・ライティング・スタッフ) 音響＝Alain Nouveau 衣裳＝伊藤早苗 演出助手＝眞山直則
舞台監督＝鈴木田竜二 舞台監督助手＝政香里沙 劇団員スタッフ＝森 好文 チラシデザイン＝チャーハン・ラモーン 制作＝山本由利子、新倉奈々子
主催＝兵庫県立尼崎青少年創造劇場 後援＝ノルウェー大使館

